

TCFD*提言への対応

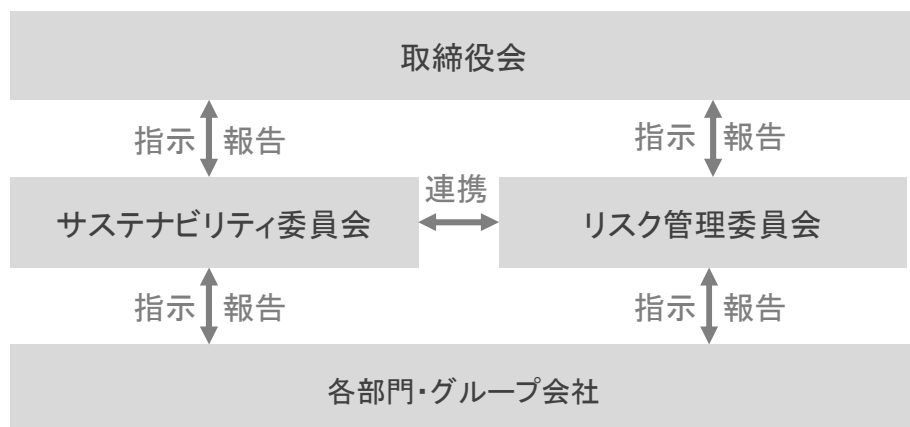
当社グループは、気候変動が事業の持続的成長へ影響を及ぼすことを認識し、TCFD提言に基づいた取り組みを進めています。2022年度に気候変動による臨床検査事業のリスクと機会の検討を行いました。今後も検討を継続し、適切な情報開示に努めていきます。

*TCFD:Task Force on Climate-related Financial Disclosuresの略。G20からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)により設置された気候関連財務情報開示タスクフォース。

ガバナンス

気候変動対応については、取締役会のもと、サステナビリティ委員会がリスク・機会の特定と評価、その評価の見直しを行い、年1回以上取締役会に報告します。取締役会はサステナビリティ委員会からの報告に基づいて、気候変動対応における方針の決定、監督を行います。事業会社の各部門は、上記の方針に基づき、対応を実施します。気候変動に関するリスクと機会については、リスク管理委員会と連携し、リスクマネジメント体制において管理します。

➤ 組織体制と役割



リスク管理

サステナビリティ委員会は、気候変動に関連するリスクと機会を、それぞれ発生可能性、影響度、対応策の有無などで評価し重要度を決定しています。評価にあたっては、必要に応じて関連する各部門にリスクインタビューを行い、毎年見直しを実施しています。さらにリスクと機会に対応策を立案し、設定した指標により対応策の進捗を管理しています。

気候変動に関連するリスクと機会も含め、重要度が高いものについてはリスク管理委員会に報告され、リスク管理委員会の各委員が組織横断的に調査、審議し答申を行い、必要に応じて取締役会に報告しています。

戦略

シナリオ分析

今回のシナリオ分析においては主要な事業である臨床検査事業を対象に、2030年度の影響を検討しました。

シナリオは、脱炭素へ移行する2℃シナリオと、現状を上回る温暖化対策が取られず温暖化が進行する4℃シナリオの2つを検討しました。検討にあたっては、IEAが発行する「World Energy Outlook」の各シナリオ、IPCCが採用するSSP(共有社会経済経路)シナリオ、及びRCP(代表的濃度経路)シナリオ、政府等が発行した将来予測や計画を参照しました。また、それぞれリスク・機会の項目において、影響が大きい方のシナリオを参照しました。

シナリオに基づくリスクと機会の抽出を行い、必要な対応を検討した結果、臨床検査事業における、気候変動に伴う重大な事業リスクは確認されませんでした。

	項目	事象	潜在的な影響	対応の方向性	事業リスク	事業機会
移行 リスク・ 機会 2℃ シナリオ	政策	GHG排出量の規制強化 炭素税の導入	【リスク】 規制の強化および炭素税の導入による、燃料、原材料調達等の事業コストの増加 【機会】 物流手段の多様化による業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> コスト増加の影響は限定的であるものの、集配網の効率化と、ガソリン車の削減を行い、機会へと変えていく 	小	○
		脱炭素移行を背景とした、業務および診療のリモートの浸透	【リスク】 オンライン診療の浸透に伴う検査需要の減少 【機会】 ICT活用による業務の効率化 【機会】 医療環境の変化への対応による収益機会の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した業務の効率化を加速し、さらに新たな診療所支援ビジネスの開発を目指す 	小	○
	テクノロジー	低炭素技術活用へ移行	【リスク】 EV車両等への更新によるコスト負担 【機会】 EV車両等への更新による燃料コストの削減	<ul style="list-style-type: none"> EV車両等の環境配慮型車両を段階的に拡大する 	小	○
物理 リスク・ 機会 4℃ シナリオ	急性	気象災害の発生頻度増加と規模の拡大	【リスク】 集配網の寸断によるサービスの一時停止 【リスク】 自社拠点の被災によるサービスの一時停止	<ul style="list-style-type: none"> BCPの継続的な見直しにより、早期復旧と安定したサービスの提供を行う 他拠点におけるサポート体制を強化する 	小	—
	慢性	気象変動に伴う疾患の増加、健康リスクの高まり	【機会】 検査需要の増加	<ul style="list-style-type: none"> 感染症や予防需要拡大に備えた検査体制を強化する 	—	○